

1 親子の居場所事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①利用者を温かく迎え入れる雰囲気のある場になっている。	・より居心地の良い居場所となるために、ボランティアの活用を検討する。 ・より多くの方が拠点を利用するような取り組みの検討をする。	A	A
②多様な世代、性別等の養育者と子どもが訪れる場になっている。		B	A
③養育者と子どものニーズ把握の場になっている。		A	A
④親(養育者)自身が親として育ち、また子どもが育つ場となっている。		A	A

評価の理由(法人)

(主なデータ)

・利用者数: 29年 18,990人(1日平均78人) 30年 18,866人(平均78人) 31年 16,748人(平均70人)2020年(3月を除く平均75人)
 ・新規登録者数 29年 764人 30年 838人 31年 730人
 ・利用者アンケート「すきっぷを利用した感想」(2力年平均): 自分の気分転換が出来た⇒そう思う70.5%、ややそう思う27.5% :子どもが楽しく遊べた⇒そう思う93.5%、ややそう思う6% ①

② 5か月未満新規登録者

29年度	30年度	31年度
159人 (20.8%)	149人 (17.7%)	182人 (24%)

③ 妊娠期の新規登録者数

25年~29年平均	30年度	31年度
54人	79人	96人

④ 父親利用者数

25年~29年平均	30年度	31年度
406人	651人	523人

1. <<利用者を温かく迎え入れる雰囲気づくり>>

・親子とのやり取りの中から、共通項を把握し、他の親子と知り合うきっかけを作る工夫をした。孤立している親子には声を掛け、安心して過ごせるよう配慮している。特に手助けを必要とする方(妊婦等)には手厚くサポートしている(データ①)
 ・1F「ひだまり」(*1)では、居場所の開館時間外にもオムツ替えや授乳での利用ができるようにし周知している。
 ・地域のイベントや区の4か月健診、両親教室、サロン、公園あそび等にスタッフが出向き拠点の周知をした。
 ・妊娠中に家族で参加できる事業を開催し、出産後早期の母親の来館、父親の来館につながっている。(データ②・③・④)
 ・生後4か月までに来館した方に、すきっぷサポーター(*2)が製作した「背守り(*3)」を贈っている。誕生を祝うメッセージカードを同封し、養育者が返信するという間接的な交流が出来ている。(データ②)

2. <<多様な養育者と子どもが訪れる場>>

・子どもが就園して利用が減った親子に向けて、ホームカミングデー(48組100名参加)を開催した。また、参加した養育者をすきっぷサポーターや横浜子育てサポートシステムの活動につなげた。
 ・共遊ひろば(*4)から居場所の利用につながった親子について、スタッフが丁寧な声掛けをし、安心して過ごせるよう配慮した。
 ・母親との会話からニーズを捉え、父親と子どもだけの利用を促した。土曜日には家族の利用や父子の継続利用もあり、父親の利用が増えている。(データ④)
 ・ひとり親家庭の方にも丁寧な傾聴を行い、居心地の良い場となるよう心掛けた。
 ・外国につながる方の来所の際は適宜、英語・ベトナム語のリーフレットを用いて案内しているが、「やさしいにほんごのリーフレット」の整備も必要と捉えている。また、国際結婚している母親のニーズに応じた交流事業を準備している。(コロナの影響により延期中)
 ・祖父母と孫の利用が可能であることを周知し、利用の際には他の養育者との交流に繋げている。

3. <<ニーズの把握の場>>

・養育者との会話や相談からニーズを捉え、共通する課題を持つ人が集まる事業を行った。「2歳以上の子、遊ぼう」「アラフォーママあつまれ」等)
 ・「ひとり親サポートよこはま」と事業を共催したが、より多くのひとり親の方の声を聞くため、土曜日に居場所とは別の場所で事業を行う準備をした。(コロナの影響により延期中)
 ・居場所のおもちゃをスタッフが製作し、年齢に合わせた使い方を紹介している。関心を持つ養育者には、おもちゃの作り方を伝えている。

4. <<交流の中で育ち合う場>>

・共通する課題をテーマとした事業に参加した利用者同士が、交流する場として継続したいというニーズを受け、主体的な会の開催をサポートした。
 ・講座や共通する課題をテーマとした事業の終了後、居場所で養育者同士が交流する姿が見られた。
 ・マタニティ向け事業で居場所の親子と触れ合う中で、先輩ママ・パパとしての体験談や産後の生活についてアドバイスをする姿が見られた。事業への協力者としてのボランティア(プレママサポーター)(*5)登録者も増えている。
 ・事業に参加した養育者との会話の中から、ニーズを聴き取り、親子サークルを立ち上げるための協力をした。

(*1)ひだまり: 1Fベビーカー置き場の奥の、靴を脱いで利用するスペース

(*2)すきっぷサポーター: 手作り、読み聞かせなど希望に応じて活動するボランティア

(*3)背守り: 子どもの健康や成長を願う模様を着物の背の縫い目に刺繍したもの

(*4)共遊ひろば: 発達がゆっくりな子ども、小さく生まれた子ども等を対象とした事業で、拠点とは別の会場を借りて行っている。(利用者支援事業に詳しく掲載)

(*5)プレママサポーター: 乳児の養育者が、マタニティ事業の参加者に出産や産後の生活の体験を話したり、赤ちゃんの抱っこ体験に協力するボランティア。マタニティ事業の参加者が、出産後にサポーターを申し出てくれる例もある。

評価の理由(区)

- 1 定例会などで拠点に向いた際に、利用者を温かく迎え入れる雰囲気・状況となっているか、拠点の様子を利用者目線で確認している。また、第三者委員へも相談等ないことを確認している。
母子手帳交付時に渡しているマイカレンダーの裏面に拠点に関する情報を載せ、妊娠期から利用できる場であることを周知した。
- 2 妊婦及びパートナーの拠点利用のきっかけとなるように、両親教室参加者に対し拠点の案内を行った。拠点が開催したひとり親家庭へ向けた講座に関しては区役所が窓口等でチラシを配布・配架し、未熟児・障害児等の講座に対しては該当する家庭には地区担当保健師から直接配布するなど配架の協力や講座の企画、周知についての相談に乗った。またこんにちは赤ちゃん訪問事業時や子育て世代の転入者に対しても拠点の案内(子育てマップや通信)を配布している。
- 3 利用者のニーズや傾向を把握するため拠点が実施している利用者アンケートの結果を共有している。また、区では子育て家庭の声を把握するため、乳幼児健診の対象者に子育てアンケートを実施した。
- 4 拠点スタッフが様々な親や子どもの対応が出来るように相談等に応じている。養育支援が必要な家庭に対しても、区と情報を共有しながら広場での見守りを行っている。

拠点事業としての成果と課題

- (成果)
- ・妊娠期の方とその家族を対象とした事業を平日だけでなく土曜日に何種類か開催したことにより、妊娠期の方の来所が増え、産後の早期利用に繋がった。
 - ・居場所でのボランティアを短い時間でも希望に沿い、得意なことを活かして参加する形で受け入れた。また、直接親子と接する機会が持てなくても、メッセージカードを介して交流したり、製作したものを子どもに贈るなどして、温かい雰囲気づくりをすることが出来ている。
- (課題)
- ・広く養育者に向けてインターネットを更に活用するなどして、拠点の事業や利用方法をわかりやすく伝えられるよう、発信内容を見直していく。
 - ・居心地の良い場とするために、丁寧な傾聴を心掛け、また把握したニーズを拠点事業に取り入れていく。
 - ・利用の少ない外国籍の方や就労している方へのアプローチを区と共に検討していく。

振り返りの視点

- ア いつでも気軽に訪れることができ、安心して過ごせるような配慮、工夫をしているか。
- イ 居場所を訪れる様々な利用者(養育者、子ども、ボランティア等)の間に、交流が生まれるように工夫しているか。
- ウ 多様な養育者と子どもを受け入れる配慮や工夫をしているか。
- エ 養育者と子どものニーズを把握するための工夫をしているか。
- オ 把握されたニーズを区こども家庭支援課や関係機関と共有し、ニーズに応じて必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。
- カ 子どもの年齢・月齢に応じた遊びの環境が整備されているか。
- キ 子ども同士の関わりが尊重され、子どもが健やかに育つために必要なことに養育者が気付き、学ぶ機会を提供する場となっているか。
- ク 養育者同士が相談、情報交換し、課題解決し合う仕組みや仕掛けがあるか。

2 子育て相談事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)																									
		法人	区																								
①養育者とスタッフとの間に安心して相談できる信頼関係ができ、気軽に相談ができる場となっている。	・多様化する困り感・相談に対応するため、研修やスーパーバイズを受けながら、さらにスタッフのスキルアップを図っていく。また、スタッフの入れ替わりの際にも、拠点全体の相談対応のスキルを維持していく。	A	A																								
②相談を受け止め、内容に応じて、養育者を関係機関につなげている。また、必要に応じて継続したフォローができています。	・日々の利用者とのやりとりや専門家相談から見える相談傾向の中からニーズを探り、それに応える事業を行っていく。	B	A																								
評価の理由(法人)																											
<p>(主なデータ) H30年度からH31年度</p> <p>《専門家相談》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助産師相談: H.30 15回 103人(平均6.9人)、H.31 10回 75人(同7.5人) ・栄養士相談: H.30 12回 112人(平均9.3人)H.31 10回 83人(8.3人) ・保育園の先生がいる日: H30 .9回(相談32人)、H.3 19回(相談48人) ・歯科衛生士: H.30 2回 24人、H.31 2回 40人 <p>《ひろば・個別相談に対応したイベントや講座》</p> <p>生活について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助産師講座(wellness育児をめざして): H30年参加者22人 H31年7人 ・離乳食講座(出張講座も含む): H30年参加者27人、H31年 26人 ・保育園の先生がいる日: H30年参加者192人、H31年232人 ・イヤイヤ期の講演会:H30年参加者63人(うち父親15人) ・イヤイヤ期の講座:H31年参加者14人(うち父親5人)託児9人 ・食の講座: H30年参加者36人、H31年31人 ・3歳児子育て教室(区と協働):H30参加者13人(託児9人) <p>親自身について</p> <p>アラフォーママの会、同じ出身地の会、2歳以上あつまれ、0歳児、1歳児の会等</p> <p>《スタッフ研修》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イヤイヤ期の子どもとその親への支援 ・乳幼児健診について(区の保健師による) ・幼児安全法 ・沐浴指導(区の助産師による) ・幼児教育・保育無償化について ・個人情報保護 ・相談対応/傾聴について ・定期的な心理士との勉強会 																											
		<table border="1"> <caption>30.31年度 ひろば・個別相談内容内訳(%)</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>健康</td><td>8.2</td></tr> <tr><td>生活</td><td>23.6</td></tr> <tr><td>発育</td><td>10.0</td></tr> <tr><td>しつけ</td><td>1.1</td></tr> <tr><td>地域</td><td>6.4</td></tr> <tr><td>親自身</td><td>15.3</td></tr> <tr><td>親の仕事</td><td>4.4</td></tr> <tr><td>家庭</td><td>9.9</td></tr> <tr><td>就園</td><td>8.8</td></tr> <tr><td>制度</td><td>11.8</td></tr> <tr><td>その他</td><td>0.5</td></tr> </tbody> </table>		項目	割合(%)	健康	8.2	生活	23.6	発育	10.0	しつけ	1.1	地域	6.4	親自身	15.3	親の仕事	4.4	家庭	9.9	就園	8.8	制度	11.8	その他	0.5
項目	割合(%)																										
健康	8.2																										
生活	23.6																										
発育	10.0																										
しつけ	1.1																										
地域	6.4																										
親自身	15.3																										
親の仕事	4.4																										
家庭	9.9																										
就園	8.8																										
制度	11.8																										
その他	0.5																										
<p>1、《安心して相談できる場》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもとのやり取り(あそびやふれあい、声掛け)の中から信頼関係を築き、気軽に相談(話)が出来る雰囲気作りを心がけた。 ・丁寧に傾聴し、気持ちを受け止め、相談内容によって必要な情報を提供している。また、適宜他のスタッフにも相談したり、拠点以外へのつながりが必要と考えられる場合には横浜子育てパートナーにつなげている。 ・スタッフは研修に参加したり、心理士による継続的な学びを積み重ね、より丁寧な対応ができるようになった。 ・相談の傾向を振り返り、養育者に必要な情報を手に取りやすい形で配置している。 ・日々の振り返りの際に、必要に応じて横浜子育てパートナーや子育てサポートシステムのスタッフとも相談について共有し、対応を考え、次回に生かすようにしている。 ・区内の保育園と連携し、継続して遊びの提供や保育士へ気軽に相談できる機会を設けている。 <p>2、《利用者の個別相談から見えてきたニーズを事業につなげる》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居場所で行う専門家相談の後に、専門家と共に振り返りをし、相談の傾向や全体的な課題を把握して事業を組み立てている。(wellness育児をめざして、出張離乳食講座、保育園の先生が来る日) ・利用者の傾向や相談内容を把握し、ニーズを反映したイベントや講座を関係機関とも連携しながら柔軟に検討・開催していくことが出来た。(出張離乳食講座、食の講座、アラフォーママの会、同じ出身地の会、イヤイヤ期の対応 等) ・相談ができる機会の周知(通信・ホームページ・メールマガジン・チラシなど)に努めている。日ごろ利用しているひろばで相談できる機会や、共通項を持つ他の利用者とは話が出来る場を設けた。(保育園の先生がいる日、アラフォーママの会、0歳児、1歳児、2歳以上集まれなどのテーマ別の会等) ・利用者の居住地域の保育園の地域支援、子育てサロン、子育て支援者会場、親子サークルなどを案内し、地域の中で子育てができるように案内している。 ・ひろばスタッフが相談対応のスキルアップを図るために、地域にある資源を訪問する機会を増やし適切に把握していく。 																											
評価の理由(区)																											
<p>1 信頼関係構築のためにも重要となる個人情報保護(プライバシー保護)の研修を行っている。スタッフの相談スキルアップのため幼稚園無償化の制度説明会を行った。また拠点が新たに始める沐浴講座に向けて助産師と母子保健コーディネーターによる技術支援を行った。</p> <p>2 多様な養育者のニーズに応じるため、区の事業の説明や新しい制度の伝達講習等をしている。また、必要に応じ状況報告を受け、福祉保健センター各課での対応を確認し、関係者や関係機関への引継を行っている。</p>																											

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・相談内容は多様化してきているため、スタッフが研修に参加したり、居場所では養育者向けに専門家相談をとりいれながら、気軽に相談できる場を作ることができた。
- ・子どもの成長に合わせて、その時々々の悩みやニーズに対応することを意識しながら相談にあたることができた。
- ・既存の事業を継続して行っていくことも大切にしてきた。地域の支援の場に専門家を派遣して、拠点から遠い地域での相談事業を実施し、相談機会を増やしてきた。また、地域の支援の場と共に見守る繋がりも出来てきている。

(課題)

- ・スタッフはひろばの中での相談に対して、地域資源を十分に知ることにより良い対応ができるよう、地域の支援についての理解を、スタッフ全体で深めていく。
- ・横浜子育てパートナーや、専門家につなげた後のフォローやフィードバックを区と共有できるよう意識する。

振り返りの視点

- ア 養育者が相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。
- イ どのような相談に対しても傾聴し、相手に寄り添う相談対応を行っているか。
- ウ 相談内容の傾向を把握し、振り返りを行い、望ましい対応の検討や共有に努めているか。
- エ 区子ども家庭支援課との連携のもと、各種専門機関の役割を把握し、養育者への効果的な支援を行うための連携、連絡体制を作っているか。
- オ 専門的対応が必要と考えられる相談について、区子ども家庭支援課と相談しながら適切に対応しているか。
- カ 関係機関とつながった後も、役割分担に応じて、継続的な関わりを持っているか。

3 情報収集・提供事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①区内の子育てや子育て支援に関する情報が集約され、養育者や担い手に向けて提供されている。	・インターネットで情報収集する人がより増えていくため、より多くの情報を正確にまた迅速に提供していく。	A	A
②子育てや子育て支援に関する情報の集約・提供の拠点であることが、区民に認知されている。		B	A
③拠点の情報収集、発信の仕組みに、養育者や担い手が積極的に関わっている。		B	B

評価の理由(法人)

(主なデータ)

子育て情報が何が充実したらいいと思いますか？

項目	割合
イベントや講座	92
幼稚園	30
保育園	24
地域の親子で行ける場所(つどいのひろば・サロンなど)	86
一時預かり	68
相談の場(子育て支援者、電話相談など)	35
親子サークル	17
その他	0
集団あそび	6

情報は何で発信したらよいか？

媒体	割合
LINE	1%
紙媒体	14%
メールマガジン	21%
スマホのアプリ	18%
ホームページ	29%
インスタグラム	16%

すきっぷホームページビュー数 月平均

年度	29年度	30年度	31年度
ビュー数	4,206	4,841	6,212

30年度...保育園・幼稚園地域支援のページ開設
31年度...子育てサロン、サークル、地域のページ開設

利用者アンケート(31年度)から

すきっぷ通信年12回発行 2000部 配布ヶ所 120ヶ所
泉区子育て支援マップ 2000部 区の転入手続き窓口、
こんにちは赤ちゃん訪問でも配布

すきっぷ利用者アンケート30年度

区のアンケートでは
1位が親子で行ける場所が49.9%
2位がイベントや講座が19%

1 子育て支援情報の収集・提供

- ・養育者が必要としている情報を(親子で行ける場所やイベント・講座)紙媒体だけではなくホームページ等に掲載することで、すきっぷに来所が困難な養育者にも情報が提供できるようにした。身近に行ける場所として子育てサロンや保育園の地域支援、子育てサークルなどホームページにカテゴリー分けや地域別にして掲載した。ホームページを持たない保育園もあるため、園の地域支援の取り組みを発信した。
- ・エリア別子育て支援ネットワーク連絡会(*1)の場で、ホームページに掲載している情報の周知と、イベント等の情報提供を依頼し地域の取り組みについて情報収集を行っている。
- ・区民活動支援センターが主催する泉区区民施設ネットワーク会議に参加し、すきっぷ発行のメールマガジンについて周知し、区民利用施設から子育て家庭に向けた情報発信手段として、活用されるようになった。また子育てサロンや地域ケアプラザの事業周知にも活用され、親子の参加につながっている。
- ・子育て家庭に向けて情報が届くよう、SNSを活用し、ツイッターに加えて、InstagramやFacebookで情報を発信するようになった。
- ・親子の居場所での情報の見せ方について、利用者の目線に立って整理・配置を行い、居場所スタッフが利用者のニーズを汲み取りながら情報を手渡しできるよう、内容の把握や確認を行った。
- ・こんにちは赤ちゃん訪問員を通して、年間1500部の「泉区子育て支援マップ」を配布している。

2 区民への周知

- ・区の協力により、H30年5月より広報よこはま泉区版に「すきっぷのお知らせコーナー」ができ、主だったイベントを掲載できるようになった。これにより、子育て世代以外にもすきっぷの事業周知ができるようになり、事業への申し込みやボランティア確保につながった。
- ・薬局、産婦人科医院、相鉄いずみ野線の駅に、拠点のリーフレットやニュースレターを配架している。
- ・区民ふれあいまつりに参加し、多世代に向けてすきっぷの周知をした。今後は、拠点についてより区民に伝えられるよう、掲示などを工夫していきたい。
- ・区が実施した養育者対象アンケートの中で「利用方法や内容がわからない」という回答が多かった。

3 養育者や担い手の関わり、他機関との協力

- ・居場所に親子サークルのコーナーを設けサークルが情報を掲示できるようにし、利用者がサークルのチラシを持ち帰れるようにした。「泉区のサークル紹介ファイル」を作成し、利用者が閲覧できるようにした。
 - ・出産した方が「プレママサポーター」となり、体験談やクチコミを記入したものを、マタニティの方が来所した際に閲覧できるようにしている。
 - ・情報担当のスタッフ以外にも、チラシ作成の講座やInstagramの講座などで勉強し、情報の発信に関わっている。
 - ・「情報ボランティア」として利用者から「親子で行けるおすすめの場所」の情報を提供してもらい、掲示して他の利用者とも共有している。
 - ・他区の拠点と連携し、全18拠点の情報担当者が学びや共有の機会を設定するなど、意見交換の場を立ち上げた。
- (*1)エリア別子育て支援ネットワーク連絡会: 区を地域ケアプラザエリア6つに分け、地域の支援機関や支援者が互いの活動を理解しながら、地域の特性に応じて子育て支援に取り組むこととする。(事務局: 区・地域ケアプラザ・地区社協・すきっぷ)

評価の理由(区)

- 1 子育て支援に関する情報はきめ細やかに拠点と共有し、常に最新の情報を提供している。転入者向けに、児童手当の申請窓口で「泉区子育て支援マップ」を配布した。
子育てサロンの情報などメールマガジンで発信してもらえると、自分から検索せずとも情報が入手でき便利という声もある。
- 2 広報よこはま区版でメールマガジンの二次元コードや各種拠点が行う事業を掲載し、拠点の情報発信の周知に協力した。その他に区内保育施設等の紹介イベント「いずみっこひろば」において拠点の役割や機能を紹介する場の提供を行った。また、全戸訪問であるこんにちは赤ちゃん訪問時に「すきっぷ通信」を配布している。支援者が拠点の役割を理解して拠点への情報集約することの認識が高まっている。
- 3 おすすめおでかけスポットなど養育者の声を発信している。
さらに直接養育者らが関わられる方法を充実していけるよう、拠点とともに考える。

拠点事業としての成果と課題

- (成果)
- ・ホームページの充実やメールマガジン、SNSの活用により迅速に情報を提供することができた。
 - ・地域の支援者にもメールマガジン等を活用することで地域情報を発信できることが認識され利用が広がった。
- (課題)
- ・職場復帰した方など事業に参加した様々なライフスタイルの養育者が情報発信できる方法を検討していく。
 - ・拠点の紹介や機能、利用方法などを、よりわかりやすく多くの区民に周知していく。

振り返りの視点

- ア 養育者や担い手が必要としている情報が何かをとらえ、区内の幅広い地域の子育てや子育て支援情報を収集・提供しているか。
- イ 来所が困難な養育者や担い手も含め、情報を入手しやすいよう、さまざまな媒体や拠点以外の場を通して情報発信しているか。
- ウ 利用者が情報を入手しやすく、自ら選べるひろば内の工夫をしているか。
- エ さまざまな子育て支援の場に向いて収集した具体的な情報や、関係機関及びネットワークを通じて得た情報を養育者や担い手に提供しているか。
- オ 拠点の情報収集・提供機能を幅広く区民に周知しているか。
- カ 養育者や担い手から拠点に情報が届けられる仕組みや工夫があるか。
- キ 情報収集・提供の企画に養育者や担い手が関わる仕組みや工夫があるか。

4 ネットワーク事業

目指す拠点の姿		(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
			法人	区
①地域の子育て支援活動を活性化するためのネットワークを構築・推進している。		・養育者のライフスタイルが変化し、乳児期から保育所等に入所する子どもが増えてくる中で、地域へどのようにつなげていくか、様々なネットワークを活かして考える。	B	B
②ネットワークを活かして、拠点利用者を地域へつないでいる。			B	A
評価の理由(法人)				
(主なデータ)			H30	H31
①	エリアネットワークでの活動(回数/養育者・支援者参加者数)		55回/1332人	61回/937人
②	子育てサロン連絡会(サロン数=24カ所)(回数/参加者数)		2回/47人	1回/17人
③	公園あそび(回数/参加者数)		37回/657人	32回/669人
④	子育てサロン専門家派遣(回数/希望サロン数)		25回/16カ所	24回/15カ所
⑤	つどいの広場、サロンなど 地域への大型絵・玩具貸出(件数/希望団体)		46件/10団体	38件/11団体
②子育てサロン連絡会 研修テーマ: H30「こどものこころを育てるあそび」 H31:「0歳児の遊びと発達について」				
⑥近所の人との交流を積極的に楽しみたいか そう思う 56.8% 思わない 42.5%(泉区子育てアンケートより)				
1.【地域の子育て支援活動を支えるネットワークを推進】(データ①)				
<ul style="list-style-type: none"> ・エリア別子育て支援ネットワーク連絡会の事務局として、ネットワークの目的を確認しながら、活動が継続するようサポートを行った。外遊び、勉強会、中学生との交流、祭り参加などを通して、子育て家庭と支援者の接点を作っている。 ・泉区子育て支援連絡会(*1)においても事務局として、区全体の課題を共有し、各機関の活動に活かしている。 ・主任児童委員の改選後に拠点で研修会を開き、互いの活動の理解を深めた。継続して関係性を築く働きかけが必要。 				
2.【地域への働きかけ】(データ②③④)				
<ul style="list-style-type: none"> ・エリア別子育て支援ネットワーク連絡会にて「赤ちゃんのえき」の設置を呼びかけ、つどいの広場と共にマーク(看板)を作成し、設置準備をした。 ・子育てサロンへの専門家派遣では、丁寧にニーズを聞き取りサロンとの関係づくりを行っている。 ・スタッフが親と子のつどいの広場を訪れたり、地域に出向いていることを拠点利用者に周知した。また、ひろば運営法人の事業(ホームスタート)の担い手向け研修に協力したり、拠点で行う研修や講演会へスタッフの参加を呼び掛けて共に学んだ。地域資源の一つとしてより深く理解できるよう、スタッフが訪問する機会を増やしていく。 ・公園あそび事業に協力を依頼している担い手と丁寧に振り返りを行い、地域の子育て家庭の課題を共有した。公園あそびが自治会主体に発展した地域と共催している公園もあり、地域の方と共に見守る関係性が出来てきた。 				
3.【関係機関や、親の会とのつながり】				
<ul style="list-style-type: none"> ・公園あそび事業にセンター保育園のネットワーク保育士が参加し、遊びを通して養育者の相談に繋がっている。 ・「ひとり親サポートよこはま」と共催講座を行った。参加者のニーズをより多く聞き取ることが出来るよう、今後の企画、進行について検討する。(利用者支援事業参照) ・多胎児の親子のサークルを区と共に支援し、OBによる当事者向け相談会の運営をサポートしている。(企画、運営、保育) ・ダウン症児の親の会(ハッピークローバーの会)(*2)の運営者と話し合い、会の参加者のライフスタイルが変容する中で活動継続について、拠点の関わり・協力について検討している。 ・拠点から離れた地域ケアプラザと共催で離乳食や生活リズムなど養育者からの相談が多いテーマの講座を行い、地域ケアプラザの地域コーディネーターと子育て家庭の声を聞きとり、共有した。 				
4.【養育者のライフスタイルの変化に応じた支援のために】				
<ul style="list-style-type: none"> ・子育てサロンの利用者の低月齢化の中で、担い手の声を受けて「0歳児の遊びと発達について」の研修を企画した。(データ②) ・地域の支援の場を妊婦の時から利用しやすくするために、親と子のつどいの広場にて、拠点で実施しているマタニティ向け企画(沐浴体験など)を行う準備をした(コロナの影響により延期中)。 ・区で行ったアンケートから、地域との交流に積極的な養育者は半数を超えており、働き続ける子育て家庭にも地域と繋がりを持てるような支援を検討する必要がある。(データ⑥) 				
<p>(*1) 泉区子育て支援連絡会: 区域の関係機関による情報交換と課題の共有を目的とする。(事務局: 区、区社協、すきっぷ) 年2回開催 参加機関= 保育園園長会・幼稚園協会泉支部・地域ケアプラザ・親と子のつどいの広場・基幹相談支援センター・主任児童委員・児童家庭支援センターなど</p> <p>(*2) ハッピークローバーの会: ダウン症児を持つ親の会</p>				

様式1-4 地域子育て支援拠点事業評価シート

評価の理由(区)

1 区・拠点・社協・地域ケアプラザで事務局を担い、きめ細やかな対応と顔の見える関係作り、地域特性を踏まえた子育て支援の充実のため、6つのエリアで「エリア別子育て支援ネットワーク連絡会」を実施している。平成22年から始まっていた連絡会の目的と目標を改めて振り返り明確化して、泉区子育て支援連絡会とエリア別子育て支援ネットワーク連絡会が有機的に連携できるよう再編成した。

2 拠点利用者を地域に繋げるため、外あそびや地域イベントなどの効果的な具体策を「エリア別子育て支援ネットワーク連絡会」で共有・実施している。取り組みは地域に定着してきている。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

・エリア別子育て支援ネットワーク連絡会の活動に地域の支援者の参加が定着し、子育て家庭の課題を共有し、共に見守る風土が出来てきている。

(課題)

・エリア別子育て支援ネットワーク連絡会の活動においては、子育て支援の目的を共有・確認しながら、地域の子育て課題にあった活動ができるよう支えていく。

・横浜市版子育て世代包括支援センターの考え方にに基づき、区との役割分担を確認しながら、地域、支援者、関係機関と協力し推進していく。

振り返りの視点

ア 子育て家庭や地域の子育て支援関係者のニーズを踏まえ、連携促進に取り組んでいるか。

イ 地域の子育て支援関係者が、互いに知り合い、理解し、子育て家庭の状況及び子育て支援の情報や課題を共有するための場、機会をつくりだしているか。

ウ 地域の子育て支援関係者が協力し、支え合えるように、関係者同士をつないでいるか。

エ 養育者を身近な地域の子育て支援の場につなげているか。

オ 子育て支援活動に関心のある方を丁寧に受け止め、必要に応じて身近な地域の活動へつないでいるか。

5 人材育成・活動支援事業

目指す拠点の姿	(参考)2期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①地域の子育て支援活動を活性化するため、担い手を支えることができている。	・地域活動の担い手不足に対し、「泉区子育て支援ネットワーク連絡会」の活動や繋がりを活かして、人材の育成について考え取り組んでいく。 ・支援に携わる人材との関係を更に深め、共通する課題に対応する研修や学習の場を提供していく。	A	A
②養育者に対して地域活動の大切さを伝えるとともに、地域の子育て支援活動に関心のある人が、活動に参加するきっかけを作っている。		A	A
③広く市民に対して、子育て家庭を温かく見守る地域全体での雰囲気づくりに取り組んでいる。		A	A
④これから子育て当事者となる市民に対して、子育てについて考え、学び合えるように働きかけている。		B	A

評価の理由(法人)

(主なデータ) 全て参加人数

- ① 子育てサロン連絡会・赤ちゃん教室運営協力者の合同研修会 H30 講演会(こどものこころを育てるあそび)=30名 H31 勉強会(0歳児の遊びと発達) (3月→中止)
 法人開催 勉強会 H30 「対人援助の基本と傾聴」=32名 H31 「支援者のメンタルヘルス」 (2月→中止)
 養育者向け講演会 H30、H31計=親子227名 支援者参加=28名
 「こどもの食事・偏食について」「イヤイヤ期を乗り切るために」「乳幼児家庭の危機管理」など
- ② 孫育て講座(横浜子育てサポートシステム担当開催) H30=26名 H31=14名
- ③ 親子サークルリーダー支援(リーダー研修会 年3回)参加者(親子) H30=44組 H31=52組
 双子サークル・OB支援(ふたごちゃん、あつまれ) H30=親子12組 サークルOB・支援者12名 H31=親子12組 OB・支援者18名
- ④ ボランティア活動(すきっぷサポーター) 親子H30=86組 H31=73組 地域の方・支援者 H30=19名 H31=30名
- ⑤ プレママサポーター H30=14名 H31=17名 職場復帰講座(*1)パネリスト H30=4名 H31=4名
 学生ボランティア、研修受け入れ H30=36名 H31=38名(大学生、小学生~高校生サマースクール)

1.【支援者に向け、共に学ぶ機会をつくる】(データ①)

- ・地域の担い手のニーズや拠点で捉えた課題に応じて、エリア別子育て支援ネットワーク連絡会の場合やサロン連絡会で勉強会を開催している。
- ・法人主催の勉強会では、地域の担い手自身をサポートするテーマを設定し開催している。
- ・地域の担い手に、拠点で行う養育者向け講演会へ参加を呼び掛け、養育者が抱える課題について共有している。

2.【地域の身近な支援へ、関心ある人をつなぐ】

- ・孫育て講座を横浜子育てサポートシステム担当者が開催し、提供会員や拠点でのボランティア「すきっぷサポーター」につなげた。(データ②)
- ・エリア別子育て支援ネットワーク連絡会に参加している支援者を、横浜子育てサポートシステムの提供会員につなげている。
- ・「公園あそび」の担い手については、子育て支援に関心がある人・親子サークルリーダー等に声掛けをして、担い手の世代を広げている。

3.【養育者の自主的な活動を支える】(データ③)

- ・親子サークルのリーダーに向けて、区・区社協と共に研修会を年3回行い、情報交換会や学びの機会を提供し支援している。
- ・双子サークル(みどふあど)の活動を支援し、OBが開催をする相談・情報交換会(ふたごちゃん、あつまれ)の企画や周知、運営を区・社会福祉協議会とともに支援している。
- ・居場所を利用する養育者のニーズに応じて、同じテーマを持つ人同士の交流の場としての親子サークル立ち上げを支援した。

4.【子育て家庭を見守る地域づくり】(データ④)

- ・支援活動の入り口として設けている「すきっぷサポーター」では地域の方が参加して「背守りづくり」を行い、拠点を初めて利用する赤ちゃんに贈っている。メッセージカード同封して交換し、贈り手と受け手が間接的に交流する手段となっている。活動を地域情報誌に掲載することにより、区民に周知し参加者が増えた。
- ・「ハマハグ」の周知・推進を行い、地域の店舗や施設に協力を呼びかけ、短期間に多数の協力を得られた。(20件/3か月)

5.【次世代育成・養育者への働きかけ】(データ⑤)

- ・5年前から受け入れている看護学生の研修では、学生の企画による「いのちの授業」を居場所の養育者に向けて行った。
- ・「エリア別子育て支援ネットワーク連絡会」の活動の中で、乳幼児親子と中学生のふれあい体験を実施した。
- ・マタニティの方とその家族向けの事業では、「プレママサポーター」などの協力を得て、居場所で親子と交流する時間を設け、産後の子育てのイメージを持てる機会とした。
- ・養育者を、興味関心があり、得意なことを活かして参加できるボランティア活動へ繋げた。(すきっぷサポーター、プレママサポーター、職場復帰講座(*1)パネリスト)

(*1)職場復帰講座:年1回、区が主催して職場復帰を控えた人が、既に復帰している人に体験談を聞いたり交流する企画。拠点はパネリストを紹介し、当日の運営にも参加している。

様式1-5 地域子育て支援拠点事業評価シート

評価の理由(区)

- 1 子育て支援を担う方が活動を継続できるよう子育てサロン連絡会や親子サークルリーダー研修会を共催し支援した。内容についてもアンケートを取りながらニーズに沿った内容で行うことができています。
- 2 子育て世代がゆくゆくは次の世代にスタッフとして活動する意欲をもってもらえることを目指し、エリア別子育て支援ネットワーク連絡会での公園遊び、子育てサロン大集結、中学生や赤ちゃんとのふれあい体験などを共に行った。
- 3 区づくり事業「子育て支援力向上検討会」に拠点にも参加してもらい、泉区での子育て支援の課題や方向性について一緒に検討を行った。
- 4 保育や看護を学ぶ大学生の実習や中高生のボランティア等を積極的に受け入れている。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・拠点で行う「すきっぷサポーター親子」「プレママサポーター」「背守りづくり」は、ボランティア活動の入り口となり、参加者同士の交流にもつながっている。
- ・マタニティ向け事業を増やし、妊婦と養育者の接点が多くなる中で、体験を伝えることが子育てを始める人の助けとなり、伝えられた人はまた、自ら伝えていくという循環が生まれた。
- ・見守っている家庭の子どもが成長して拠点利用が少なくなっても、サポーター活動への参加という形で繋がり、その人が持つ力を発揮できる場となった。

(課題)

- ・就労している親が参加できるボランティアの仕組みを検討し作っていく。
- ・学生の研修やボランティア参加の機会を適切に増やしていく。

振り返りの視点

- ア 子育て家庭や担い手のニーズを踏まえ、活動意欲の向上やスキルアップにつながる取組がなされているか。
- イ 地域の子育て支援活動がより充実されるよう、必要に応じて新たな活動希望者を結び付けているか。
- ウ 新たな担い手を発掘・養成する取組がなされているか。
- エ 活動希望を丁寧に受け止め、拠点内の活動や身近な子育て支援活動等に結び付けているか。
- オ 養育者が地域を身近に感じ、地域の活動に関心を持てるように働きかけているか。
- カ 地域で子育て支援に関わる人が増えているか。
- キ 子育ての現状や子育て支援の必要性を周知・啓発しているか。
- ク 子育て家庭(妊娠期の方を含む)を温かく見る気持ちを持つことができるように働きかけているか。
- ケ これから子育て当事者となる市民と子育て中の親子がふれあい、学び合う機会や場を作っているか。

6 横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業

目指す拠点の姿	(参考)1期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①子育てサポートシステムに、多くの区民の参画が得られている。	・利用会員の依頼が多い地域と少ない地域があるため、提供会員の活動状況に偏りが生じている。活動の少ない提供会員が活動に繋がる工夫を検討していく。 ・早朝・深夜の預かり、配慮が必要な依頼が増加傾向にあり、提供会員の負担が増加している。	A	A
②養育者にとって、必要な時に利用しやすい事業となっている。		A	A
③会員が地域の支え合いの良さ、大切さを理解しながら、利用や活動を継続できるように、支えることが出来ている。		A	B
④養育者の利用相談内容に応じて、子育て相談や他機関等の情報を提供し、必要な支援につなげている。		A	A

評価の理由(法人)

(主なデータ)

①活動報告件数			②コーディネート件数(件)			③新規会員数(人)				
29年度	30年度	31年度	29年度	30年度	31年度		29年度	30年度	31年度	
1,663	1,297	1,346	81	87	115	利用会員	41	74	127	
④居場所預かり件数			⑤利用者実数、提供者実数(人)			両方会員	7	5	6	
29年度	30年度	31年度		29年度	30年度	31年度	提供会員	14	11	19
29	25	54	利用者	76	79	90	増加人数	62	90	152
			提供者	46	47	53				

1 横浜子育てサポートシステムの区民の周知

- ・区の協力により、広報よこはま泉区版に横浜子育てサポートシステムの説明を掲載した、2019年度からは提供会員募集のチラシを自治会の回覧板で周知することができ、提供会員が増加した。(データ③)集団入会説明会を月2回行っているが、提供会員が少ない地域にはさらに出張して説明会を行った。また、小中学校にチラシを13,000部配布した。
- ・4か月児健康診査・両親教室に出向き、どのような利用できるか等を簡単に説明した。
- ・エリア別子育て支援ネットワーク連絡会のお祭り等に担当者が出向く際には、チラシを配布した。
- ・保育園送迎依頼が多く保育園の園長会で事業の説明や協力依頼をしており園長にも理解が進んでいる。
- ・居場所スタッフが、新規登録の際のやり取り連絡会の中から聞き取り、ニーズに応じて担当のスタッフに繋ぐことにより、新規の利用会員数が増えた。(データ③)

2 利用しやすさ

- ・活動件数(データ①)は29年度に比べれば減っているが、コーディネート数(データ②)は増えている。週に何回も定期的に頼んでいた利用者の子どもの年齢が上がり依頼がなくなっているが、週1回の習い事への送迎は増えている。
- ・実際に利用している利用者は年々増加し、それに伴い、なるべく多くの提供者の方にサポートをしていただこうとコーディネートしているため微増ではあるが多くの提供会員の方に協力をしていただけている。(データ⑤)
- ・定期的な説明会に加えて地域に出向き、地域での説明会や個別にも対応し、体調が悪く、拠点に来られない養育者には訪問して入会説明会を行った。
- ・双子サークルへも出張して、入会説明会を行った。
- ・居場所預かりを行うことで、預かりの様子などを見ることが出来るため、安心につながり利用する人が増えた。(データ④)
- ・入会説明会の時にリフレッシュで利用できることや養育者が在宅でも利用ができることなどをあげて利用しやすさをPRした。

3 継続できるように支える

- ・登録したばかりの提供会員や定期的なサポートのない会員には、入会説明会の見守り託児をお願いし今後の活動に繋げた。
- ・コーディネートするには利用会員から丁寧に聞き取り、事前打合せには同席し、活動内容を確認しあい、スムーズに活動できるようにフォローしている。また、提出された活動報告書の内容から、提供会員、利用会員に連絡を取り活動のフォローをした。

4 養育者のニーズに合った支援

- ・コーディネートを進めるにあたり、様々な選択肢の中から、養育者のニーズに応えつつ子どもにとってより良い対応について、利用者支援事業と連携を図り検討しながら情報提供を行った。
- ・サポートの依頼が来たことを通して、孤立した親子や支援の必要な親子に対しコーディネートを行いながら適切に関係機関との繋がりを作ることが出来た。
- ・公的なサービスを希望しない方の援助にあたっては、スタッフが信頼関係を築きながらサポートをした。

様式1-6 地域子育て支援拠点事業評価シート

評価の理由(区)

- 1 事業案内と提供会員の募集について広報よこはま区版の特集、小中学校長会を通じて保護者へのチラシ配布、自治会町内会への回覧を行った。
- 2 乳幼児健康診査や来所面接、個別相談、母子健康手帳交付時等で必要のある方に事業紹介をするとともに、拠点と直接調整し利用につなげている。
- 3 定例会の中で、会員向けの研修会や交流会の情報を共有している。
- 4 必要に応じ、拠点への助言や連絡調整を行っている。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ・自治会の回覧は効果があり、提供会員増加につなげることができた。
- ・実際に依頼している利用会員や活動している提供会員が増えている。

(課題)

- ・エリア別子育て支援ネットワーク連絡会や、子育てサロンとのつながりの中で、その地域のサポートの状況を伝え、提供会員増加につながるような活動を継続していく。

振り返りの視点

- ア 区民に対して、子育てサポートシステムについての周知活動を行っているか。
- イ 提供会員数拡大に向けた取組がなされているか。
- ウ 養育者に対して、必要時に利用相談しやすく感じられるような周知活動等の工夫をしているか。
- エ 会員が相互の合意のもとに気持ちよく安全に活動できるよう、会員の状況に応じた活動方法の提案や、丁寧なコーディネートができていますか。
- オ 会員の声の把握に努め、必要に応じて活動内容の調整や会員のフォロー、追加のコーディネート等を行っているか。
- カ 提供・両方会員が活動の意義を感じながら、安心・安全な活動を継続して行えるよう、研修会等の取組がなされているか。
- キ 会員の活動意欲を高めるため、会員間の交流をはかる取組がなされているか。
- ク 就労に関する以外の養育者のリフレッシュ等の理由での利用を促進する取組がなされているか。
- ケ 会員間で授受される個人情報会員が適正に取り扱うことが出来るよう、注意喚起や研修等の取組がなされているか。
- コ 援助活動の調整等を通して把握した子育てに関するニーズを、必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。
- サ 専門的対応が必要と考えられる相談について、こども家庭支援課との連携、連絡体制のもと、適切に対応しているか。
- シ 子育てサポートシステム以外の子育てに関する相談に対して、情報提供等の支援ができていますか。

7 利用者支援事業

目指す拠点の姿	(参考)1期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①拠点における利用者支援事業が、区民や関係機関に広く認知されている。	・利用者支援事業という子育ての相談ができる機能が拠点にあることを、広く区民に周知する。 ・関係機関や地域の担い手と顔の見える関係は築けている。今後は横浜子育てパートナーの役割や利用者支援事業について、より理解を得ながら連携して支援できることを目指す。	B	B
②相談者に寄り添い主体性を尊重しながら、個別相談に応じ、適切な支援を行っている。		A	A
③子育て家庭を支えるためのネットワークの一員として、包括的な視点を持って子ども・子育て支援に関する関係機関や地域の社会資源との協働の関係づくりを行っている。		B	A

評価の理由(法人)

(主なデータ)

○認知度(知っている) 拠点アンケートより

	パートナー	電話相談	匿名可	相談予約
30年度	43.0%	51.5%	39.7%	48.5%
31年度	78.3%	52.2%	27.3%	40.9%

○相談件数

	相談		記録表	
	件数	人	件数	人
30・31年	580	453	325	241

○3年間の推移(29~31年度)

・相談きっかけ(地域・区・関係機関・拠点事業等からの紹介) 12.1%→14.7%→16.5% 1位は相談継続

・相談方法(相談室利用) 7.2%→6.3%→19.2%

・相談内容(親の仕事・子どもと家庭・経済問題についての相談増)

・1位と2位は「親自身」と「子どもの生活」

・区役所との記録共有・連絡 27.9%→30.3%→40.2%
→個別性の高い相談が増えている。(離婚、経済問題、DVなど)

○実績

- ・沐浴体験64名 粉ミルク作り体験36名(平成31年度5回ずつ開催) ・母子保健コーディネーターとの定例カンファレンス(年4回)
- ・訪問連携:子育て支援者会場・赤ちゃん教室・各子育てサロン・杜の郷こども家庭支援センター・親と子のつどいの広場
- ・泉区基幹相談支援センターかがやき・旭区地域活動ホーム(連)おもちゃ館、旭区パートナーと連携・横浜医療センター・公立保育園
- ・多胎児サークル・ひとり親サポートよこはま 等

①事業周知区民への認知

- ・他の事業の参加者や従事者へ利用者支援事業の周知を行った。(子育て支援者相談会場・赤ちゃん教室・子育てサロン・つどいの広場・区民まつり・エリア別子育て支援ネットワーク連絡会・拠点他事業等)
- ・母子手帳交付時に母子保健コーディネーターが配布する「マイカレンダー」に、拠点マタニティ向け事業の案内や、相談ができることを知らせる案内を載せ、マタニティやその家庭に広く周知した。掲載内容については両方で十分協議することができた。
- ・これらのことにより、横浜子育てパートナーの認知度は著しく上がっているが、利用者支援事業自体の認知度は低いいため、事業の詳細や利用方法がわかるチラシを作成したり、SNSを使って発信したりして、広く関係機関や区民に周知をする必要がある。(主なデータ「拠点アンケート」より)

②相談者に寄り添い、主体性を尊重した個別相談と適切な支援窓口等の案内や仲介

- ・保健師・助産師・母子保健コーディネーターや拠点スタッフとはカンファレンスや必要に応じ情報共有を行い、お互いの役割を確認しながら連携し継続的に見守った。横浜子育てパートナーが提供する情報が信頼できるものか確認し合い、相談者自身が選択できるよう配慮した。
- ・居場所のスタッフとの間で日々振り返りを行うことで、相談者の気持ちを推し量りながら、相談先の提案を行ったり、相談者了解のもと、紹介・仲介をしたりして、居場所スタッフと協力し寄り添った支援を心掛けた。
- ・保健師等区の職員や専門家などのカンファレンスやスーパーバイズ、拠点スタッフとの振り返りを行い、様々な立場の意見を聞くことで多角的な視点を持って支援することを意識した。
- ・ひろばと相談室の間に位置する半開放的な空間の1階フリースペース(ひだまり)でも相談できることを伝え、相談場所を相談者が選択できるようにした。
- ・相談対応においては、現状に至った経緯や背景も考慮し、相談者を多面的に支援するために必要な方法を考えるよう努めた。
- ・妊娠期に参加できる事業を開催し、参加者が相談しやすい仕組み作りをした。(沐浴体験・粉ミルク作り体験等)
- ・養育者による相談や区とのカンファレンスから把握した共通の悩みやニーズに対して、「共遊ひろば(※1)」を開催し、区のアドバイスも受けながら、子どもにとっての遊びの場であり、親同士交流し共有や相談し合える場を提供した。拠点居場所のスタッフとも連携し、拠点の居場所の利用へと繋がっている。

③ネットワークの構築と協働の関係作り

- ・保健師や助産師、母子保健コーディネーターに事業の開催に向けてアドバイスや協力をもらい、実施後も引き続きお互いに情報共有し、協働の関係づくりを行った。(沐浴体験等妊娠期の事業・共遊ひろば・双子ちゃん集まれ等)
- ・地域の子育てサロンへの研修内容の検討を泉区こども家庭支援課・区社会福祉協議会と行った。子育てサロン連絡会・研修会においては、サロン従事者のニーズを把握し、研修会の講師を保育園地域支援保育士に依頼し、課題解決と地域との関係作りを図った。また、ネットワーク事業の「専門家・ボランティア派遣」においても、子育てサロンのニーズを丁寧に聞き取り、事業に生かすと共に、終了後はヒアリングを行い、子育てサロンとの関係作りをしている。
- ・横浜子育てパートナーはエリア別子育て支援ネットワーク連絡会の担当エリアを数年おきに交代し、広く関係作りを行っている。また、担当以外のエリアでも全体の会議やイベントへは継続して参加し横浜子育てパートナーの周知をしている。
- ・地域ケアプラザに出向き講座を開催したり、親と子のつどいの広場に向けて共催事業の提案を行うなど、地域に出向いた支援の実施を図った。

評価の理由(区)

- 1 広報よこはま区版への掲載、こんにちは赤ちゃん訪問員・子育て支援者・主任児童委員の定例会、赤ちゃん教室など様々な機会を捉え広く区民への周知を行った。
- 2 相談業務の支援としては定例会や必要時に相談状況・内容の報告を受け、横浜子育てパートナーが適切な支援を行えるように助言するとともに必要に応じ連携しながら支援を行った。
- 3 横浜子育てパートナーが地域の保育園や子育て支援者、主任児童委員などの地域の社会資源と円滑な連携が図れるような連絡調整した。

拠点事業としての成果と課題

- (成果)
- ・区の事業へ積極的に出向き、横浜子育てパートナーの認知度を上げることができた。
 - ・子育て世代包括支援センター包括については、拠点と区で気になる妊婦の共有ができることで支援の幅を広げることができた。
 - ・件数は多くはないが、継続支援も含め、相談者の求めに応じた支援ができた。
 - ・地域で活動している支援関係者が抱える課題を把握し、解決のために関係機関等と協議した。
- (課題)
- ・利用方法をより丁寧にわかりやすく案内し、気軽に身近な相談であることを周知する。
 - ・アウトリーチ(情報提供や出張相談)の場と機会を増やし、利用者支援事業と地域の支援がつなぎあう関係づくりを広げる。

振り返りの視点

- ア 利用者支援事業を幅広く区民や関係機関に周知しているか。
- イ 養育者に対して、気軽に相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。
- ウ 最新の情報を収集し、活用できるよう工夫しているか。
- エ 相談に対しては、傾聴に努め、ニーズを把握して対応しているか。
- オ 拠点内連携、関係機関への紹介・仲介・支援依頼等について、相談者が円滑に利用できるような対応をしているか。
また、専門的な対応を要する相談については、内容に応じて速やかに関係機関に紹介・仲介する等、適切な対応を行っているか。
- カ 拠点内連携、関係機関への紹介・仲介後も必要に応じて役割分担を確認しながら継続的な関わりをもっているか。
- キ 相談の対応状況や支援の適切さ、拠点内外での連携状況等について、多角的な視点から振り返りや検討を行っているか。
- ク 拠点のネットワークを活用し、関係機関や地域の社会資源との関係づくり・関係強化を行っているか。
- ケ 利用者支援事業の周知や個別相談等の取組を通じて、支援につながる新たなネットワークの構築を行っているか。
- コ 把握した課題を関係機関等と共有し、拠点事業の充実や、必要な支援の調整や見直し、不足する資源の調整や提案につなげているか。